



令和三年度

日南市読書感想文・読書感想画
コンクール入賞作品集

第十三集

主催 日南市教育委員会
協賛 株式会社ニチワ

はじめに

日南市第十三回読書感想文・読書感想画コンクールに応募してくれた児童・生徒のみなさん、本当にありがとうございました。

コロナ禍の中、たくさんの方の作品の応募があり、みなさんが日頃から本に親しんでいることをうれしく思いました。

本を読んで「不思議だな」「いい言葉だな」「私もこうなりたい」「わくわくした」など、思ったり感じたりしたのではないでしょうか。そんないろんな感情や考えを素直な思いとして、感想文や感想画で表現しました。心動かされたこの一冊の本は、みなさんを心豊かにしてくれる、とても大切な友達です。

このコンクールを通して、みなさんが大切な本と出会うきっかけとなり、これからもたくさんの本を読んで健やかに成長することを心から願います。

終わりに、本コンクールを実施するにあたり、御協賛いただきました株式会社ニチワ様をはじめ、指導及び審査に際して多大な御尽力をいただきました学校関係者の皆様に対しまして、心からお礼申し上げます。

令和三年十二月

日南市教育長 都 甲 政 文

読書感想文コンクール目次

【小学校一年生の部】

金賞 「どこからきたの？おべんとう」をよんで

北郷小中学校 甲田 優心 . . . 10

銀賞 「うみのごちそうしろくま」をよんで

吾田東小学校 吉元 春翔 . . . 12

銅賞 おばけのアッチ

吾田小学校 中島 歩楓 . . . 13

入選 そのときがくるくる

桜ヶ丘小学校 長友 翼 . . . 14

【小学校二年生の部】

金賞 「犬のハナコのおいしやさん」を読んで

桜ヶ丘小学校 澤田 笑怜 . . . 16

銀賞 小さなともだち

飢肥小学校 小川 咲麗 . . . 17

銅賞 「ずーっとずっとだいきだよ」を読んで

吾田小学校 須志田 侑愛 . . . 19

入選 「ボックニヤック団長のぼうけん」を読んで

吾田東小学校 古井 和 . . . 20

入選 「はらぺことこのさま」を読んで

油津小学校 江崎 望愛 . . . 21

【小学校三年生の部】

金賞 トンキーが教えてくれたこと

桜ヶ丘小学校 中島 香后 . . . 23

銀賞 世界中からお母さんとよばれた人

飢肥小学校 山田 珠緒里 . . . 25

銅賞 「ルドルフとイッパイアッテナ」を読んで

吾田東小学校 竹下 奈々花 . . . 27

入選 まほう使いのようなねこ

吾田小学校 橋口 由奈 . . . 29

入選 きらわれもののカメムシ

北郷小中学校 甲田 迅 . . . 30

【小学校四年生の部】

金賞 「わたしたちのカメムシずかん」を読んで

鴻上小学校 福元 輝龍 . . . 33

銀賞 共に生きる

北郷小中学校 甲田 星南 . . . 35

銅賞 「スガリさんの感想文はいつだって

斜め上」を読んで

桜ヶ丘小学校 丸田 彩葉 . . . 38

入選 努力するってすてき

大堂津小学校 森 滯奈 . . . 40

入選 ねこのおみやげ

酒谷小学校 阿波根 愛海 . . . 42

【小学校五年生の部】

金賞 転んでも大丈夫

吾田小学校 田中 翔 . . . 44

銀賞 ぼくが平和のためにできること

油津小学校 鷹巢 凜人 . . . 46

銅賞 家族や友達に対する接し方

吾田東小学校 後藤 大智 . . . 48

入選 「ありがとう、フォルカーせんせい」

を読んで

東郷小中学校 濱田 梨衣沙 . . . 50

入選 世界でもっとも貧しい大統領

大堂津小学校 濱田 桃華 . . . 52

【小学校六年生の部】

金賞 物に宿る想い

吾田東小学校 爲永 真結子 . . . 56

銀賞 臓器移植、提供する側の気持ち

東郷小中学校 松浦 渚笑 . . . 58

銅賞 どんな人にもやさしく

酒谷小学校 小野 公雅 . . . 60

入選 「わたしの苦手なあの子」を読んで

榎原小学校 崎村 心音 . . . 62

入選 海を守るためにぼくができること

油津小学校 渡邊 亮太 . . . 64

銀賞 「考える」大切な人との最後

飢肥中学校 二年 日高 綾音 . . . 70

銅賞 「思うは招く」

南郷中学校 二年 松岡 洸佑 . . . 74

入選 それぞれの日常・目線

日南学園中学校 一年

奥村 滴 . . . 77

入選 不良高校とバカにされたって

飢肥中学校 三年 郡司 鈴実 . . . 79

【中学校の部】

金賞 「夢をかなえるゾウ」を読んで

飢肥中学校 一年 鍋倉 叶 . . . 67

読書感想画コンクール目次

【小学校二年生の部】・・・・・・・・・・ 86・87

【小学校一年生の部】・・・・・・・・・・ 84・85

金賞 でんであ龍がでてきたよ

油津小学校 緒方 悠斗

金賞 カメレオンのかきごおりや

油津小学校 井上 翔貴

銀賞 うみのとしよかん あらしがやってきた

吾田東小学校 甲斐 遥音

銀賞 みらいのえんそく

潟上小学校 河野 瑛心

銅賞 ちいさなちいさなうみのおさんぽ

吾田小学校 小玉 心遙

銅賞 みらいのえんそく

桜ヶ丘小学校 後藤 空翔

入選 こんにちは！わたしのえ

潟上小学校 山倉 栄祐

入選 どんぐり村のぼうしやさん

鶺鴒小中学校 坂元 心春

入選 おおきなおおきなおいも

細田小学校 森 雫月

入選 ジャックとまめの木

飢肥小学校 清水 尊平

【小学校三年生の部】・・・・・・・・・・ 88・89

金賞 おしゃべりなたまごやき

鶺鴒小中学校 坂元 海音

銀賞 「絶滅危機動物図鑑」

消えてゆく野生動物

南郷小学校 田中 惟都

銅賞 うみキリン

油津小学校 山田 陽莉

入選 にくのくに

鶺鴒小中学校 外山 華妃

入選 でんでんむしのかなしみ

大窪小学校 高村 叶望

【小学校四年生の部】・・・90・91

金賞 花のすきなおおかみ

油津小学校 竹井 柚葉

銀賞 にじいろのさかなとおおくじら

飢肥小学校 黒原 音花

銅賞 ともだちやもんな、ぼくら

北郷小中学校 中津 凜星

入選 ウミガメものがたり

吾田小学校 田中 祐丞

入選 にくのくに

南郷小学校 田中 絢人

【小学校五年生の部】・・・92・93

金賞 宿題ロボット、ひろったんですけど

油津小学校 鷹巢 凜人

銀賞 100かいだてのいえ

飢肥小学校 山田 望結

銅賞 らくだい魔女とランドールの騎士

吾田東小学校 藤本 虹春

入選 イナバさん！

鶺鴒小中学校 中原 咲和

入選 イナバさん！

東郷小中学校 池田 柚希

【小学校六年生の部】・・・・・・・・・・94・95

金賞 イルカと少年の歌

油津小学校 川端 真矢

銀賞 ひまわり 沖繩は忘れない、

あの日の空を

吾田小学校 後藤 彩綾

銅賞 そもそもオリンピック

北郷小中学校 中津 勇仁

入選 りゅうのめのなみだ

潟上小学校 松本 葉奈

入選 博物館の風景

南郷小学校 原田 奈々

読書感想画の審査を終えて・・・・・・・・・・96

審査員氏名一覧・・・・・・・・・・98

読書感想文入賞作品

【小学校一年生の部】

《講評》

ほんをえらんだわけや心にのこったばめんをていねいにかいています。じぶんのかんがえと内ようのつながりを考えながら書こうとしていることが伝わってききました。ほんをよんでじぶんのかんそうがしっかりかかれています、とてもかんしんしました。

これからも、たくさんほんをよんでよむ力をそだてていってほしいと思います。

金賞

「どこからきたの？おべんとうを」をよんで

北郷小中学校 一年 甲田 優心

わたしは、「どこからきたの？おべんとう」をよみました。おべんとうのなかに、どんなおかずがはいっているのかなときになりました。このほんは、おとこのこがのはらにおえかきしにいきました。そこでおかあさんがつくったおべんとうをたべるおはなしでした。おべんとうのなかに、おかあさんからのてがみがいっていました。おべんとうのなかのたべものがどこからやってきたのかかいているてがみでした。

おべんとうをあけると、おにぎり、たまごやき、アジフライ、ポテトサラダ、ブロッコリー、バナナがはいっ

ていました。わたしも、ブロッコリーがだいすきです。ほいくえんのおべんとうをつくってもらったとき、「ブロッコリーをいれてね。」と、いったことをおもいだしました。このおとこのこもわたしとおなじで、ブロッコリーがすきなかなとおもいました。ブロッコリーは、つぼみです。はじめてしりました。つぼみをたべていたんだなとびっくりしました。

バナナは、にほんからとおくはなれたみなみのくにから、ふねにのってやってくるのをしりました。にほんのたべものではないものも、ふねにのってはおぼれるなんてすごいとおもいました。

たまごやきのたまごは、どこからくるのかかっています。わたしのおとうさんは、にわとりをそだてているか

らわかります。にわとりをそだてているひとがたまごを
べたいです。

ひろって、あらって、はこにつめて、スーパーにもって

いって、おきやくさんがかってたまごやきをつくとお
もいます。ほんとおなじでした。

よんだほん「どこからきたの？おべんとう」

たったひとつのおべんとうは、たくさんのひとがつく
ってくれたおべんとうなんだとおもいました。おかあ
さんがつくったおべんとうなのに、やさいをそだてたひ
と、ふねや、トラックのうんてんしゅ、スーパーのひと
がつくっているんだとおもいました。わたしは、ごは
んをのこすことがあるけど、ぜんぶたべないといけない
などおもいました。ぜんぶたべたら、みんながよろこぶ
とおもいます。

これからは、ありがとうのきもちでごはんをのこさずた

銀賞

「うみのごちそうしろくま」を読んで

吾田東小学校 一年 吉元 春翔

ぼくは、このほんをよんで、「くいしんぼうのしろくま」がだいすきになりました。ぼくも、しろくまくんみたいにごちそうのなかにはいることができたからおもしろいだろうなあとおもったからです。

いちばんおもしろかったところは、しろくまのかぞくみんなが、かいてんずしのおすしになってまわってきたところですよ。たのしそうですけど、まぐろのしたのしろくまくんが、そのままたべられないかしんぱいになりました。ぼくも、まぐろのおすしがだいすきなので、いっしょにまぐろのしたにはいってみたいなあとおもいました。

た。

にばんめにきに行ったのは、うなじゅうです。ふたをあけたら、うなぎをおふとんにしてねているしろくまくんがとてもきもちよさそうでした。ぼくもいっしょにうなぎのおふとんでねたいなあとおもいました。

ぼくは、にちなんのいせえびがだいすきなので、しろくまくんにもおしえてあげたいです。しろくまくんが、いせえびのみそするやグラタンにはいっているところをみてみたいです。

うみのごちそうのなかにはいっているしろくまくんは、とてもしあわせそうで、ぼくもとってもしあわせなきもちになりました。

よんだほん「うみのごちそうしろくま」

銅賞

おばけのアッチ

吾田小学校 一年 中島 歩楓

わたしは「おばけのアッチほったぺろりん」というほんをよみました。このほんをえらんだのは、ちがうおばけのアッチのほんをよんでもおもしろかったので、ほかのほんもよんでみたくてとしょかんでかりました。

このほんは、れすとらんひばりのこつくさんのおばけのアッチがしゅじんこうで、どらきゅらじょうにちいさなおばけドッチが、つかまっているとしてアッチがたすけにいくおはなしです。

わたしがこのほんをよんで、いちばんこころにのこったのは、アッチがドッチのことをじぶんのおとうとだと

おもっていたのに、ちがっていてアッチがひとりぼっちになるところが、かなしいきもちになりました。だけれすとらんにかえてみると、ともだちがしんぱいしてまっけてくれました。アッチはうれしくてなきたくなりました。わたしも、うれしいきもちになって、アッチに「よかったね」といいました。

わたしも、アッチみたいにたくさんおともだちをつかって、なかよくなりたいたいです。一ねん二くみのぜんいんとおともだちになりたいです。

これからたくさんほんをよんで、うれしいきもちや、たのしいきもちになりたいです

よんだほん「おばけのアッチほったぺろりん」

入 選

そのときがくるくる

桜ヶ丘小学校 一年 長友 翼

ぼくは、ひょうしのえがきになったので、このほんをよみました。たくまが、きれいだったなすをがんばってたべるおはなしです。

いちばんころろにのこったのは、なすがきれいなたくまが、おじいちゃんのそだてたなすをさいしよはたべられなかったけど、みんなでりょうりのでつだいをして、ひとくちでもたべられたことがすごいなとおもいました。

ぼくにもきれいなやさいがあります。たくまといっしょでなすがきれいです。にがくてスポンジみたいなかん

じで、なかなかたべられません。なすのほかにも、きれいなやさいがあります。ちいさくきつたりすればたべられるのもあります。がっこうのきゅうしよくでは、ピーマンとアスパラとうもろこしが、どうしてもたべられません。けれど、ひとくちからたべてみようとおもってがんばっています。

このほんをよんで、これからはいえでも、がっこうでもひとくち、ふたくちでもたべられるようにがんばりたいです。そのためには、りょうりのおてつだいやどのようにしたら、おいしくたべられるかしらべていきたいです。そしてぼくは、たくまみたいにいつかそのときがくればいいなとおもいます。

よんだほん「そのときがくるくる」

【小学校二年生の部】

《講評》

本を楽しみながら読んでいたのだなと思えるかんそう文でした。とう場人ぶつの気もちによりそって、やさしく思う作ひんもありました。お話から考えを広げて、自分や家ぞくなどについて考えたことを書いてある作ひんがあり、とてもかん心しました。これからも、いろいろな本を読んでお話のせかいを楽しみ、そうぞうのつばさを広げて「読む力と心」をそだてていってほしいと思います。

金賞

「犬のハナコのおいし屋さん」を読んで

桜ヶ丘小学校 二年 澤田 笑怜

わたしは、「犬のハナコのおいし屋さん」というお話を読みました。なんでこの本をえらんだかというところ、わたしが好きなどうぶつのお話だったからです。

いちばん心にのこったのは、犬がびょうきになってしゅじゅつをしているところです。

こうつうじこにあつて足をけがした犬はびょういんに行きました。おいし屋さんから、「一生あるくことにはできない。」と言われたかいぬしさんは、「あるけないならこの犬はいらない」とおいしさんに言いました。それを聞いたおいしさんは、「あるけるようになるなら、

かいつづけていただけですか。」と、かいぬしさんに言いました。かいぬしさんは、「ちゃんとあるけるならかってもいい」といいました。おいしさんは、その犬の足をなおそうと、一生けんめいしゅじゅつをしてくれたけど、おいしさんのねがいほどきませんでした。あるけなくなったことを知ると、かいぬしさんはその犬をすてていきました。

それを読んで、犬もおいしさんもがんばったのに、すてていくなんてかわいそうだなと思いました。わたしもねこをかっています。まい日えさをやったり、トイレそうじをしたりしているけど、とても大へんです。ねこをかう前におかあさんから、

「かわいいだけじゃだめ。さいごまでちゃんとお世話を

すると、やくそくできるのか？」

と言われたことを思い出しました。今、ねこをかってかわいいという気もちと、大へんだなという気もちがあります。もしけがをして、本の犬みたいにあるけなくなったら、今よりももっと大へんになります。

だけどおかあさんと、さいごまでおせわをするとやくそくをしたし、どうぶつもがんばっているから、かわいいそんな思いをさせたくないです。犬のハナコのおいしやさんを読んでどうぶつをかわいいという気もちでかうのはだめということがわかりました。これからもかっているねこを大切にそだてていきたいです。

読んだ本「犬のハナコのおいしやさん」

銀賞

小さなともだち

飢肥小学校 二年 小川 咲麗

「小さなともだち」を学校のとしよかんで見つけました。かわいいともだちがいて、カラフルで、どんなはなしだろうとウキウキしました。

みちこがクッキーを食べようとしたら、いろんなどうぶつの、お友だちがきて、まほうのきいろいこなを、みちこにわたして、それをみちこがなめると、みるみる小さくなりました。小さくなったみちこは、かえるや、とかげや、ヒヨドリたちとたくさんのぼうけんのたびに出ました。みちこがたべようとしていたクッキーを小さくなった、みちこや、お友だちになった、どうぶつたちと

なかよく分けて、食べることができました。

せかいを、いつかわたしも、見に行ってみたいです。

わたしは、この本を読んで、みちこが小さくなって、

たくさんのお友だちと、食べものや、たのしいことをみ

読んだ本「ちいさなともだち」

んなで分けあって、たのしそうだし、クッキーを分けてあげたり、とてもやさしいなあと思いました。

花と草で、できたベッドでおひるねをしたり、ヒヨドリ

の背中によって、空をとんだりしてみたいなあと思いました。

わたしには、たくさんのお友だちがいます。友だちを

もつと、もつと大切にしたいなあと思いました。そして

らわたしにも、小さくなれる、まほうのこなを小さなか

わいいどうぶつたちが、プレゼントしてくれて、いっし

よにあそべたらいいなあと思います。小さなどうぶつの

銅賞

「ずーっとずっとだいすきだよ」を読んで

吾田小学校 二年 須志田 侑愛

わたしは、「ずーっとずっとだいすきだよ」というお話を読みました。なんでこの本をえらんだかというところ、わたしは「だいすき」ということが好きなので、どんな本なのか気になったので読みました。

いちばん心にのこったのは、ある朝、目をさますとエルフィーがしんでいたことです。「ぼく」は、エルフィーのことがだいすきでずっといっしょにいて、いっしょに大きくなりました。「ぼく」は、ぐんぐんせがのびていって、エルフィーはどんどんおじいさんになっていきました。ねていることが多くなってさんぽもいやがって、

とてもしんぱいで、じゅういさんにつれていったけど、じゅういさんにもできることは何もありませんでした。「ぼく」は、ねる前にはかならず、だいすきだよってあげました。だから、エルフィーがしんでかなしかったけど、いくらか気もちがらくでした。

わたしは「ぼく」みたいにペットはかっついていないけど「ぼく」のエルフィーのことがだいすきな気もちがよく分かりました。わたしもだいすきっていわれるとうれしいので、だいすきなお友だちやかぞくに「だいすきだよ」とつたえていきたいと思いました。

読んだ本「ずーっとずっとだいすきだよ」

入 選

「ボックニヤック団長のぼうけん」を読んで

吾田東小学校 二年 古井 和

ぼくは、ボックニヤック団長のぼうけんという本を読みました。なぜこの本を読もうと思ったかというと、本のひょうしにどうぶつがかいてあって、おもしろそうだったからこの本にしました。この本には、ボックニヤック団長という人ぶつがでてきます。ボックニヤック団長はサーカス団の団長ですが、どうぶつがくしゃでもありません。そのボックニヤック団長が、しゃべるインコ、ゾウ、ライオン、といっしょに、せかいをたびするお話です。

ぼくは、この本をよんでふしぎにおもったことがあります。

ます。それは、インコ、ゾウ、ライオンがしゃべったことです。もし、どうぶつとしゃべれたら、どんなくらしをしているかききたいです。あと、ボックニヤック団長とどうぶつたちが、たびをしたことがおもしろかったです。どうぶつたちがしゃべったように、ぼくもいろんなことばでいろんな人としゃべってみたいです。

さいごに、どうぶつとボックニヤック団長がおかわれたことがかんどうしました。でも、どうぶつたちもどってきて、またボックニヤック団長とたびができてよかったです。

読んだ本「ボックニヤック団長のぼうけん」

入選

「はらぺことのおさま」を読んで

油津小学校 二年 江崎 望愛

わたしがこの本を読んで心にのこったところは、とのさまのはらぺこじょうがくずれだしたところです。しろがくずれる時の音がたくさん書いてあって、おもしろかったからです。

この話に出てくるとのおさまは、わたしとちがってなんでも食べられて、すごいなと思いました。とのさまはわたしのにが手なうめぼしやおすしをとでもおいしそうに食べています。

とのさまは、さい後にけらいたちとみんなで、たのしそうにはらぺこじょうをおなかいっぱいいたべてしあわ

せそうでした。

わたしは、すききらいが多いからこの絵本に出てくるとのさまみたいになんでも食べられるようになりたいと思います。

この絵本には、めんのみ、わがしのみ、おでんのみ、てんぷらのみ、うめのみ、おちやのみ、すしのみが出てきました。わたしが一ばんすきなのは、わがしのみです。なくなったひいおじいちゃんからよくぶつだんにあげてあるわがしをもらっていっしょに食べました。とてもおいしくていいおもい出です。

読んだ本「はらぺことのおさま」

【小学校三年生の部】

《講評》

せん書の理由が明かくにしめしてあり、登場人物等の言動から感じたり考えたことを、そつ直にわかりやすく表げんしていました。

また、読書から学んだことを、今後に生かしていこうとする決意が具体てきにのべられ、感心しました。

金賞

トンキーが教えてくれたこと

桜ヶ丘小学校 三年 中島 香后

夏休みには、八月六日、八月九日、八月十五日とせんそうにかんけいする日があります。

わたしのおばあちゃんもせんそうがおわった年に生まれた、と話してくれます。でもわたしは、せんそう中のことを、あまりよく知らないと思いました。

そこでわたしは、本屋でせんそう中のことが分かる本をさがしました。さがしていると、ぞうのいない動物園という本がありました。わたしは、せんそうとぞうがない事と、どんなかんけいがあるのだろうかとうしぎに思いこの本を読んでみたいと思いました。

この本は、せんそう中の動物園にいるトンキーというぞうと、動物園のし育員さんたちの、本当にあった物語です。動物園でやさしいし育員さんたちにかこまれて、楽しくくらししていたトンキーは、せんそうがはげしくなってきたころ、トンキーたち、もうじゅうにばくだんが落ちた時、おりから出て人や町をきずつけてしまったため、「ころせ」とめいれいがきました。わたしは、し育員さんの気持ちになっておこりました。そしてかなしくもなりました。トンキーをころすのは、たん当のし育員です。一生けんめい、毎日おせわをして、大好きなトンキーを自分でころすなんて、わたしにはかなしくてぜったいできません。でも、めいれいはぜったいなのでころさなくてはなりません。トンキーのし育員さんは、わたしみ

たいにきつと何回も何十回もくるしんだと思います。そしてトンキーも、し育員さんの気持ちや、じゃがいもに入っただくにきづいて、とてもこわくてかなしかったと思います。

トンキーやたくさんのもうじゅうたちのいのちがうばわれてしまった動物園の事を知った、たくさんの人たちがかなしみました。せんそうでは、多くの人たちのいのちがうばわれてしまった事は、テレビや、おばあちゃんから聞いて知っていたけど、人間のほかに、こんなに多くの動物たちのいのちまでうばわれてしまっていた事は、この本を読むまで、まったく知りませんでした。せんそうはやっぱりいやです。もう二度とあってはいけません。こんな風に動物園でも大きなかなしみが生ま

れました。この動物園であった事は、もう一つのせんそうだと思いました。一つのせんそうが、たくさんのせんそうやかなしみを生んでしまう事を、トンキーがこの本で、わたしに教えてくれたような気がしました。だからわたしは、動物がたくさんいる動物園と、世界の平和をまもれる人になれるようにがんばっていきたいです。

読んだ本「象のいない動物園」

銀賞

世界中からお母さんとよばれた人

飢肥小学校 三年 山田 珠緒里

「とってもやさしそうな笑顔だなあ」

私は、マザーテレサの名前は知っていたけれど、表紙にのっているやさしい笑顔の持ち主がどんなことをしたのか知りたいと思って、この本を読みました。

マザーテレサはインドのまずしい子ども達のために、住む場所や食事をあたえて、たくさん命をすくった人です。

私はマザーテレサのことを、かっこいいと思ったところが二つあります。一つ目は、自分の考えをしっかり持っているところです。五十年くらい前のインドは、家も

仕事もなくて、道ばたでくらしている人が大ぜいいたそうです。学校の先生をしていたマザーテレサは、仕事をやめて道ばたで、一人で子どもに、勉強を教えることから始めました。人を助けるために仕事をやめたことにおどろきましたが、それを一人で始めたことにそんなけいしました。私は、初めてのことをする時や、一人で何かをすることになると、不安になって周りの意見に頼るところがあります。もし、マザーテレサと話ができれば、強い気持ちを持つために自分にどんな言葉をかけていたのか聞いてみたいです。

二つ目は、りょうを計れないくらいなあいをもっていいところです。マザーテレサが引きうけた子ども達は、やさしくあいされていたので、みんななかよしだったそ

うです。私も、友達に親切にされた時に心が温かくなつてやさしい気持ちになった事があります。ここに住んでいた子ども達は、たくさんのおいをもらえてとても幸せだったと思います。

この本を読んで私は、やさしいあいが人の心をつないでいくことを学びました。私もマザーテレサのように、やさしさのわを広げられるような人になりたいです。少しでも近づけるように、一つずつやさしい行動をつみ重ねていきたいです。

読んだ本「マザーテレサ」

銅賞

「ルドルフとイッパイアツテナ」を読んで

吾田東小学校 三年 竹下 奈々花

「この本を書いたのは、ルドルフ。ルドルフは外国人でも日本人でもない、ましてや宇宙人でもない。ルドルフは、字を書けるネコだった」このはじまりのぶぶんがとても気に入ったので、もつと読みたくなりこの本を読むことにしました。

このお話は、ルドルフというねこが、のらねこのイッパイアツテナと出会い、なかよくなつて、文字やキョウヨウを教えてもらいながらせい長し、いじわるな犬のデビルとたたかったりします。そんなねこたちの、ちえと

ゆうきと友じょうの物語です。

わたしは、このお話を読んで心にのこった場面が二つあります。まず一つ目は、ルドルフがらんぼうな言葉を使った時に、

「言葉をらんぼうにしたり、下品にしたりするとな、しぜんにもらんぼうになったり、下品になってしまうんだ。」

と、ルドルフに言った場面です。わたしも弟とケンカをした時に「いらつく」とか、らんぼうな言葉を言ってしまったことがあります。わたしは、その時のことを思い出してイッパイアツテナの言った言葉の通りだなと思いい、今ははんせいしています。心がらんぼうにならないように言葉づかいに気をつけようと思いました。

二つ目は、ルドルフがイツパイアツテナのかたきうち
にデビルの所に行く場面です。ルドルフより何倍も大き
いあい手なのに、ちえとゆう気を出してたたかったルド
ルフ。そしてやっと自分の家に帰れるチャンスだったの
に帰ろうとしないで、友だちのためにたたかったところ
がとても感動しました。ここがわたしの一番大すきな場
面です。

このお話を読んで、わたしも勉強をして、たくさんち
えやキヨウヨウをまなんで、友だちがピンチの時には、
たすけられる人になりたいと思いました。

読んだ本「ルドルフとイツパイアツテナ」

入選

まほう使いのようなねこ

吾田小学校 三年 橋口 由奈

わたしは、ねこがすきなので、「ねこのかんごしらデ
イ」を読みました。きずだらけで、やせほそって、から
だの毛もぬけおちて動物カイゴセンターにはこぼれた
時はしにかけていたけど、3か月後まるできせきのよう
にすっかりよくなりました。

それからラデイは、センターにはこぼれてくる動物た
ちをおだやかな空気をつつむやさしいねことなりまし
た。だけど、びょう気をなおせるわけではありません。
わたしのおばあちゃんのおうちにもオスねこのたま
がいます。おとなしくだっこさせてくれてふわふわとし

てきもちのよいねこです。

わたしが、「おやすみ」と言ったら、たまが、「ニャー」
と言ってくれる、わたしの言葉が分かるかしこくてかわ
いいねこです。

わたしが二年生のころに、びょう気でしんでしまいま
した。今でも思い出すとなみだがです。しんでしま
う少し前に、ごはんも食べられなくなっていたけど、わた
しのあげたおやつは、3口ぐらいペロペロとなめま
した。わたしのあげるさい後のおやつだと思って食べて
くれたのだと思います。たまとラデイは、気もちがわか
る所がにていると思います。

もう一度だけたまとラデイに会えるとしたら、ねこが
遊ぶおもちゃでいっぱい遊んであげたいです。たまのこ

とが大すぎだったおばあちゃんや、ねこが大すぎな人や

入選

ねこが苦手な人にもこの本を読んでもらいたいです。

きらわれもののカメムシ

北郷小中学校 三年 甲田 迅

読んだ本「ねこの看護師ラデイ」

カメムシは、くさいです。はたけにいるのを見た事があります。その場にいると、くさくてにげてしまいます。

ぼくは虫がすきだけど、カメムシをつかまえて育てた事はありません。くさいにおいを出す、きらわれもののカメムシの本があるんだなあと思って読む事にしました。

この話は本当にあった話です。学校にカメムシがいて、校長先生が、「カメムシには、いろんなしゅるいがあるそうです。わたしも知らないので一しよに調べてみませんか。」と言って、みんなでかんさつしてカメムシ図か

んを作って、カメムシはかせになった話です。

読んでみて、はじめて知った事が二つあります。まず一つ目は、カメムシには三十五しゆるいもいるという事です。あのくさい虫が三十五しゆるいいると、はながまがってしまうなと思いました。カメムシにはしつれいだけど、カメムシを見つけた時には、「くさっ」と、さけんでしまいました。そのくさいにおいが三十五ばいと考えると強れつすぎます。

もう一つ、はじめて知った事は、カメムシのせ中のも様が顔になっているカメムシがいるという事です。アカギカメムシのせ中のも様は、かぶき役しゃみtainなも様をしています。かっこいいなと思いました。

カメムシのにおいは、中かりよう理や東南アジアりよ

う理につかわれる草のにおいにそっくりな事にビックリしました。ぼくは、中かりよう理を食べるけど、くさいにおいはしません。くさいにおいが何かマジックにかかって、おいしいにおいにへんしんしているのかなと思いました。

この本を読む前はカメムシの事がきらいでした。でも今は、カメムシをさがしてかんさつしてみたいなあと思いました。アカギカメムシをみつけてみたいです。こんなきらわれもの虫でも、かんさつして育てるとすきな気持ちにかわって大事なたからものになるんだなあと思いました。カメムシがきらいな友だちにもカメムシのひみつを教えてあげたいです。

読んだ本「わたしたちのカメムシずかん」

【小学校四年生の部】

《講評》

本を読むきっかけ、そして自分の体験も織り交ぜながら、感じたことがしっかりと表げんされていました。

読書を通して学んだことや、これからの自分の生き方を生かしていこうという決意が感じられました。

金賞

「わたしたちのカメムシずかん」を読んで

鴻上小学校 四年 福元 輝龍

ぼくは、「わたしたちのカメムシずかん」という本を選びました。その理由は表紙がおもしろそうだったからです。

このお話は、岩手県の小学校にあったじっさいのお話です。この小学校では、毎年大量にカメムシが発生し、子どもたちがそうじをするのにこまっていました。ところが校長先生の一言で、やっかいものカメムシを調べはじめ、そのおもしろさに目覚めました。そしてなんと一年後、研究者たちもまきこんでカメムシずかんを作ってしまったというお話です。なんとすごいことでしょう。

ぼくは、このお話を読んで校長先生が、「カメムシはかせになりましたよ。」とすすめた場面が心に残りしました。なぜならみんながきらいなカメムシを調べさせるのです。ふつうならいやがってブーイングが起こるかもしれません。みんなにとってカメムシはいやな生き物でしたが、校長先生の一言でみんながカメムシの事をたくさん調べるようになり、カメムシがいやな生き物ではなくなりました。ぼくは、校長先生はカメムシをいやな虫ではなくするために言ったのだと思います。

ぼくも同じような体験をしたことがあります。ぼくたちが夏休みでじどうクラブに行ったとき、友達と畑に行きました。すると、大きくてかまを持っているこん虫を見つけました。そのときはカマキリの事を知らなかった

のですが、そのカマがどうしても気になったので走って教室に行き、図かんで調べました。それがきっかけで日本にいるカマキリの種類を全部覚ええました。そのおかげでカマキリがますます好きになりました。

ぼくは、この本を読んで、自分がきょうみを持ったことをとことん調べることの大切さを学びました。今度は先生達からすすめられたことや苦手なことにチャレンジしようと思います。

読んだ本「わたしたちのカメムシずかん」

銀賞

共に生きる

北郷小中学校 四年 甲田 星南

「カラスは、頭がいいよ。」

と、お父さんが言いました。わたしからすると、人間が出したゴミをあさるし、黒びかりしていて気味が悪いイメージで、カラスと聞いただけでゾクゾクします。頭がいいなんて思えません。そして、そんなカラスにもいibunがあるのかな？とき問に思いこの「カラスのいいぶん」という本を読む事にしました。

読んでみるとこの作者もわたしと同じでカラスはきらいでした。でも、さんざんな目に合った作者はカラスごときに負けたくない、カラスをギャフンと言わせよう

と観察をする事にしました。

カラスには、時間わりがあるという事にビックリしました。朝起きて、出発して、ごはんを調達して、食べきれないのはかくしてためておいて、それから自由時間があって、帰るじゅんびをして、ねぐらに帰るという時間わりです。その中でも自由時間に何をしているんだろう、と気になりました。やっぱり、人間と同じで遊ぶ事が楽しいのかな？と思いました。公園にチョココン、チョココンといるのを見たりします。わたしは、ごはんを調達してきたのかな？他のカラスたちとおにごっこをしているのかな？と思いました。道路にいたり、電線の上にいるのも意味があるのだろうと思いました。

カラスは、家族をつくるのになわばりあらそいをする

ことを初めて知りました。森の高い木が、カラスにとつてはよい物けんだそうです。なぜ高い木の上がよいのかなと考えてみました。わたしが思った事は、てきから身を守るのではないかなあと思いました。でも、その森の木は人間によってばっさいされカラスの住み家をうばっています。だから、カラスは人間の住むまちにおいて来て、食べ物をさがしたり、ねどこをさがしているのだと思います。ごみ箱をあさっているのは、カラスが生活するために食りようをかき集めているのだと思います。だから、人間が都合よくカラスのなわばりをはかいはいけないと思います。

わたしの両親は、山の上で仕事をしています。ある日山に行く途中で何十ぴきものさるを見ました。木がばっ

さいされた後でした。わたしは、そのとき人間が木を切るから、さるもカラスと同じように森の中からおりてきたんだらうなあと思いました。

畑で育てていた野さいや、くだ物のひがいにあったことがあります。わたしは、「先に食べられたー。」とさけんでしまいました。その時は、目が点になりました。まさか、さるがわたしより先に食べるなんて、とくやしい気持ちでした。

カラスは、森の木がなくなって、住む所がなくなった事で人間の住むまちで人と生きることを選らびました。いつか、森に帰ってほしいなあと思っています。でも、森に帰ることはしないとします。それは、人間の住むまちだとかりもせずに食りようを調達できるから住みやす

いと思っっている様な気がします。カラスが森に帰っても
らうために、わたしたちが出来ることは、食べのこしを
なくしてざんぱんを少なくすることです。すると、ゴミ
をあさりに来るカラスは、いなくなるのではないのかな
あと思います。でも、長い時間がかかりそうです。人間
とカラスは、一しよに生きていけないと思いい
ます。人間が一步ゆずって、カラスに対して思いやりを
持つのが共に生きるポイントだと思いい。

カラスは、ちゃんとした理由があつてゴミをあさつて
いるということが分かりました。これからは、カラスを
悪者という目で見ず、どんな意味をもつて行動している
のかを考えたいです。そして、人間がかつてにカラスを
くじよしすぎないようにしてほしいです。

読んだ本「カラスのいいぶん」

銅賞

「スガリさんの感想文はいつだって斜め上」

を読んで

桜ヶ丘小学校 四年 丸田 彩葉

私がこの本を読んだ理由は、スガリさんの斜め上な感想文がどんなものなのか知りたくなったからです。あと、スガリさんがどんな人なのか知りたくなったこともあって、この本を読みました。

この物語は、高校生のスガリさんが、読書感想部を立ち上げようとする話です。そしてそんな中、顧問候補の直山先生の周りで起こる問題が、スガリさんの感想文の視点を交えながら解決されていきます。

スガリさんは、本名は須賀田綴で、お弁当に好物であ

る地蜂の幼虫(スガリ)を持って来て「スガリさん」とよばれるようになりました。読書が好きで、読んだ本は全部感想文を書いていて、それを直山先生に読んでもらっています。感想文は、表現や着目点、立ち位置が「斜め上」でいかにもスガリさんらしく、直山先生が読むと、スガリさんの声が頭の中を流れ、つい返事をしてしまうほどです。

例えば、夏目漱石の『こゝろ』では、出だしから「死の直前、『K』はなぜ、開いた襖を閉めなかったのですようか？」と「私」や「先生」の行動や発言には着目せず、襖に着目していて、直山先生も戸惑っています。さらに、相手がああ夏目漱石であるにも関わらず、「この作者、やりよる」と書いています。

私は、直山先生がスガリさんの書いた『ころ』を読む場面で、感想文がすごく自由だと思い、驚きました。

特に、「下宿の描写が気になって仕方がないので情報を集約し、間取り図を作成しました」と、二枚目の原稿用紙に方位まで添えて描かれていたところが、文ではなく資料だったのでとても驚きました。でも、最後はどうして襖のことを書いたりしたのかが分かったので、少しすっきりしました。

この本を読んで、私は感想文を書くときに、思ったことを自由に書こうと思いました。スガリさんが、一冊分の感想文に原稿用紙何枚くらい使っているのか、今までどれくらいの感想文を書いているのか、一番おすすめの本は何か、将来の夢はあるのか、いつもしているみつ

あみは、すぐとけてしまうのになぜ気に入っているかなど、気になることがどんどん増えていきました。図書館には続きの〈2〉と〈3〉もあったので早速借りてみました。スガリさんの感想文を沢山読んで、私も、いろいろな発想の感想文を書けるようになりたいです。

読んだ本「スガリさんの感想文はいつだって斜め上」

入選

努力するってすてき

大堂津小学校 四年 森 滯奈

私がこの本の題名を見た時、耳が聞こえない妹がどうやってくらしているのかが気になってこの本を読んでみることにしました。耳が聞こえないってどんなかんじなんだろう？と思って指で耳をふさいでみました。テレビの音もわからないし、「ゴォー」と言う音がずっとしていて何も聞こえなくてなんだかこわくなりました。そしてしゃべることもできなかつたのです。

この本の主人公の妹は耳が聞こえない体で産まれてきました。テレビで耳が聞こえない人が手話でお話しているのを見たことがあります。手話ってむずかしいなあ

と思ったことがあります。そんな時、学校で手話を少しだけ習って発表したことがあります。

この妹はピアノをひくこともできるし、友だちとおどることもできる。そして相手の目を見て気持ちをよみとることができそうです。そこまではたくさん努力がありました。妹は小さいときから少しずつ声に出してことばを言う練習をお母さんと始めました。くり返し、くり返し練習することできちびるの動きからことばをよみとることができるようになったそうです。

この本を読んでくり返し努力することって大事なんだと感じました。私は耳も聞こえるし手も足もあってけいこうな体です。習いごとで習字をしています。できないことがあるといやだなあと思って、てきとうに書いた

りすぐにあきらめてしまうことがありました。すぐにできようになるなくてもいいんだと思って少しずつ努力することが大事なんだとわかりました。

これから色々な所で苦手なことが出てきてもさいごまであきらめずに、何でもがんばろうと思います。そして体が不自由な人や困っている人を助けられるようなやさしい人になりたいです。

さいごにこの本をたくさんの人に読んでほしいなあと思います。

読んだ本「私の妹は耳が聞こえません」

入選

ねこのおみやげ

酒谷小学校 四年 阿波根 愛海

わたしは、ねこのおみやげという本を読みました。この本を選んだのは、ねこが好きだからです。この本は、花屋の店主のあやさんが主人公のお話です。

あやさんは、とてもやさしい人です。あやさんは、おさんぽ中にサクラという足が不自由な黒いねこを保護して、かうことにしました。

あやさんはサクラにたくさんごはんをあげてとても大切に育てていました。そして足が不自由なサクラの足にタイヤをつけて歩きやすくしてくれました。

わたしがこの本を読んで、一番心にのこった所は、サ

クラが死んでしまう所です。あやさんは、サクラが好きだった場所にサクラをおいてあげる場面で、命をととても大事にしていると思いました。あやさんが、サクラを大切に思っていたことが分かったことが心にのこりました。

わたしはこの部分を読んであやさんは本当にやさしい人だなと思いました。もしわたしがあやさんの立場だったら、かなしくてなにもできないと思うからです。

わたしはこの本から生きることの大切さややさしさを学びました。これから動物をかうときは、責任をもって最後まで大切にしたいと思います。

読んだ本「ねこのおみやげ」

【小学校五年生の部】

《講評》

初めに読書をするきっかけがどれもわかりやすく書いてありました。

そして、読書をして心に残ったことや、感動したことが素直に表現されており、感性の豊かさを感じました。また、しょう来に向けての決意やほう負が述べてあり、すばらしいと思いました。

金賞

転んでも大丈夫

吾田小学校 五年 田中 翔

ぼくは、この本の表紙を見てはっとしました。それは表紙にのっている男の子の足が義足だったからです。ぼくは、心の中で「なんで足がないのだろう」と思いました。それが、きっかけでこの本を読みました。

この話は、義肢装具士の白井二美男さんが生まれつき手足のない人や病気や事故で手足をなくした人にそのかわりになる「義手」や「義足」を作り障害者が理学療法士と共に練習をして夢に向かって挑戦するお話です。その中で一番印象に残っているのは、この本の表紙にのっている小学生の男の子の話です。男の子は、福田柚稀

くんといい「先天性脛骨欠損症^{せんでんせいけいこつげつそんしょう}」という骨の病気で生まれて九ヶ月で右足を太ももから切断しました。「どうして、ぼくの足だけふつうじゃないの？」とお母さんに聞いたこともあったそうです。この言葉を聞いてぼくは、自分を恥ずかしく思いました。なぜなら足があることがふつうだと思っていたからです。

そんな柚稀くんは24時間テレビ「愛は地球を救う」という番組で百m走に挑戦することになり理学療法士さんと特訓し、みごと本番で走りきることができました。柚稀くんは「練習がこわくていやだなと思うこともあったけど一所懸命練習したら走れるようになった。」といっていました。ぼくは、柚稀くんの最後まであきらめないうちという姿勢に感動しました。ぼくは、つらいことや

るしいことがあると「もう無理だ」とあきらめてしま
い、そうなる時があります。しかしこの本に出てくる障害者の
方は、夢や目標をあきらめず、一所懸命に生きている人
ばかりでした。

このように、世の中には、体に障害をかかえながらも
残された機能を精一杯使って生きている人がいると知
り、「自分も負けられない」と力がわいてきました。障
害者の方に負けないように悔いのない人生をおくりた
いです。

読んだ本「転んでも、大丈夫 ぼくが義足を作る理由」

銀賞

ぼくが平和のためにできること

油津小学校 五年 鷹巢 凜人

「おじいちゃんは、いつ生まれたの。」

ぼくがたずねると、祖父は、

「日本が昔戦争をしてね。その戦争が終わって五年ぐらいて生まれただよ。」

と教えてくれました。

戦争。戦争って何だろう。戦いのことだとは分かりませんが、日本がだれと戦ったのか、何を争っていたのか、ぼくの心の中に、戦争のことについてくわしく知りたい気持ちが出てきました。そんな時、クラスで本の係になって、ぐう然見つけたのが、この本です。「戦争につい

て書いてある本だ」ぼくはうれしくなって、すぐ本を読みました。

読んでいて気が付いたのは、戦争をしていたころの日本の考えの変化です。最初、日本は、「戦争はいいことだ」という意見をずっと通してきて、学校でもそう子どもたちに教えていました。でも、原ばくが二つの県に落とされた時から、「戦争は悪いことだ」と言い分が変わりました。学校の教育の方針も変わりました。本の作者の田原総一朗さんは、日本の言い分が、真逆になったことに疑問をもったと書いていました。ぼくは、本当は戦争に負けていたのに、なぜ日本が国民にうそをついていたのか不思議でした。

外国のぼくが行ったことがある国では、その国も昔戦

争に参加していたのに戦争がなかったかのように見え
ました。でも、戦争のことをもっと知りたくて、沖縄に
ついてを調べたときは、まだ、戦争のひ害のあとが残っ
ていました。世界の人々も今の日本の若者みたいに、た
くさんの人が戦争のことを分かっていないと思います。

ぼくは、将来、学校の先生になりたいから、もっと戦
争のことをきちんとして理解して、田原さんのように子ども
たちに戦争のことを伝えて、平和のことを一緒に考えら
れる大人になりたいと思います。

読んだ本「おじいちゃんが孫に語る戦争」

銅賞

家族や友達に対する接し方

吾田東小学校 五年 後藤 大智

「十年屋って、どんなお店なんだろう」

これは、ぼくがこの本を初めて見たときに思ったことです。ぼくは、十年屋がどんなお店なのか想像できませんでした。どんなお店なのか気になったので、手にとつて読んでみました。

この本は、いくつかの物語に分かれています。ですが、必ず出てくるお店があります。それが、「十年屋」です。

十年屋は大切な物や、誰にも見られたくない物、遠ざけたい物などを、一年の寿命を対価とし、十年間あずかってくれるお店です。もし、ぼくが十年屋に行けたら、小

説をあずけると思っています。理由は姉がこっさり小説を取っていくからです。

この本で心に残ったのは、「悔やみの指輪」です。この物語の主人公のテアは親友のララの指輪を盗んでしまいます。その事を後悔し、罪悪感を少しでも軽くしようとして、持っていたブレスレットをあげようと思いますが、どこをさがしても見つかりませんでした。そして、罪悪感にたえきれず、十年屋にあずけます。十年後、テアは返す決心をし、ララの家に行きこの事を話します。すると、ララもブレスレットを盗み、十年屋にあずけていた事が分かり、本当の意味で仲直りするという話です。

この物語ですごいと思ったところは二人が仲直りした場面です。ぼくがテアの立場だったら、決心できずに

言い出せないと思います。ぼくは、世の中の人達がみんなテアとララみたいな人だったらいいな、と思います。なぜなら、二人みたいに、たとえ時間をかけても、分かりあえる人達こそ、本当の友達ではないかと思うからです。

この物語を読んで学んだことは、友達や家族などには、正直に接する事が大切だという事です。当たり前の事ですが、この本を読んで改めて思いました。これからも、家族や友達などには、正直に接しようと思いました。

読んだ本「十年屋」

入 選

「ありがとう、フォルカーせんせい」を読んで

東郷小中学校 五年 濱田 梨衣沙

わたしは、パトリシア・ポラツコの「ありがとう、フォルカーせんせい」という本を選びました。なぜこの本を選んだのかというと、図書館のおすすめの本のところにならべてあって、おもしろそうだと思ったからです。

主人公の女の子トリシャは、読むこと、書くこと、計算が苦手だけど、絵を描くことは、とても上手で、小さいときから絵を描いていました。一年生になって、教科書を読むことが出来なくて、学校でみんなからバカにされていて、トリシャは、学校がつらくて、きらいでした。

お母さんの仕事で転校することになりました。そこで、フォルカー先生に出会い、いじめる子どもたちから守ってもらって、みんなとは少しちがう方法で、読み方や、書き方、そして、計算の仕方を教えてもらって、少しずつできるようになっていき、自分に自信がついて、学校が大好きになりました。そして、三十年後にとあるけっこん式で、フォルカー先生に会いました。トリシャは、フォルカー先生に、「先生のおかげで、子どもの本を書く仕事をしています。ほんとうにありがとうございます。ありがとうございました。」と、先生にお礼を伝えることができました。

わたしは、トリシャが、フォルカー先生と必死に、読み方や、書き方、計算の仕方を、トリシャは、字を讀めるようになったとき、まほうのようにかんじたこと

ろと、大人になって、けっこん式で、「フォルカー先生のおかげで人生がかわったのです。」といって、フォルカー先生が、だきしめてくれたところが、とても心に残りました。

わたしにも、同じような経験があります。二年生の時に、かけ算が覚えられなくて、お母さんとがんばって、何回も練習したら、かけ算がとても好きになって、とくいになりました。そして、かけ算は、とても楽しいなと思いました。

主人公の、トリシャは、苦手だった、読むことも、フォルカー先生と、がんばって、あきらめずに、とっくんして、大人になって、子どもの本をかけるようになっていたので、ふかのうということはないのだ、努力して、

がんばれば、何でも出来るんだなあと思いました。だから、わたしも、苦手なことは、あきらめず、努力して、トリシャのように、がんばりたいと思いました。そして、これからも、苦手なことがあったときは、二年生の時のことや、トリシャのことを思いだして、あきらめず、がんばろうと思いました。

読んだ本「ありがとう、フォルカーせんせい」

入 選

世界でもっとも貧しい大統領

大堂津小学校 五年 濱田 桃華

わたしは「世界でもっとも貧しい大統領ホセ・ムヒカの言葉」という本を選びました。なぜこの本を選んだかというと、母にすすめられて気になったからです。

主人公のホセ・ムヒカさんは、ブラジルの大統領。でも、ホセ・ムヒカさんは、ふつうの大統領ではありません。なぜなら国の人々から「この人は、貧しい大統領」と言われているからです。でも、ホセ・ムヒカさんは「自分は、貧ぼうではない」と述べていました。

ホセ・ムヒカさんは、このような言葉を言っていました。

「貧ぼうとは、欲が多すぎて満足できない人のことです」
わたしはこの言葉が心に残っています。

なぜ、国のみんなに「貧しい」と言われるのでしょうか。それは、ふつう大統領だとしても高級な車を買っているとありますが、ホセ・ムヒカさんは、そんなに高い車は、もっていません。家や家族も同じ、おくさんは、上院議員で愛犬が何匹かいる家。愛犬の一匹は、事故で、足を一本なくしています。その名前は「マヌエラ」という名前。その愛犬が、テレビで話題になりました。それにたいして、ホセ・ムヒカさんは「マヌエラにそのようなことを堂々と語らないでください。」と言いました。

わたしは、この本を読んでいるとホセ・ムヒカさんは、

貧しい人だとは、思いません。それでも国の人々は「大統領は貧しい」と、いつまでも思いこんでいました。

もう一つわたしの心に残っている言葉は、「物であふれることが自由なのでなく、時間であふれている時こそ自由なのです」と言う言葉です。ホセ・ムヒカさんは、六十年ほど同じ、自転車を使っているそうです。わたしは、「六十年も使ってるんだなあ」と思いました。

わたしも同じように長く物を使いたいなあと思いましたが、「物をたくさん買うと、すてる時にもつたないから物はできるだけ買わないようにしているよ。」とホセ・ムヒカさんは言いました。その言葉も話題になりました。

ホセ・ムヒカさんの言葉が一つ一つ話題になります。

やっぱり国の人々は「大統領は貧しい」と言っている。わたしは「大統領は貧しい」と言っているものなのかと思いました。

ふつうの大統領よりも家がごうかじゃないから？それともあまり高級な車をもっていないから？でも、ホセ・ムヒカさんは「自分は、貧ぼうではない」と言い続けていました。ほかにもこんな言葉を言っていました。「質素は自由のためのやまいです」と、「私は、持っているものでぜいたくにくらすことができます」と、いろいろな言葉に意味があります。

特に「わたしは、持っているもので、ぜいたくにくらすことができます」という言葉です。わたしは、これを見て一つでもものがあれば、ぜいたくにくらすことがで

きるんだなあと思いました。 ものを一つでも、むだにしないように、ホセ・ムヒカさんは工夫しているんだなあと思いました。

この本を読んで、物を大切にすること、人にやさしくすること、世界中の人が思いやりを持って地球にやさしく行動することで、幸せになれることを学びました。

わたしも、ホセ・ムヒカさんのように、物を大切にしたい一日一日を幸せにすごしたいです。

読んだ本「世界でもっとも貧しい

大統領ホセ・ムヒカの言葉」

【小学校六年生の部】

《講評》

本との出会いが印象的に表現されていて、みなさんの感想文にぐいぐいと引き込まれてしまいました。

読後、自分の考え方の変化やこれからの生き方へのほう負がていねいに述べられていて、とても感心しました。

金賞

物に宿る想い

吾田東小学校 六年 爲永 真結子

作り直し屋とは何だろう。表紙には大量のボタンでかざられた建物、派手なぼうしをかぶった人物が描かれている。リサイクルショップなんだろうか。そう思って読み始めた。

作り直し屋は魔法使いのツルさんが経営する店だ。お客さんのいらぬ物を持ちこんでもらって新しい物に作り直したり、いらぬ物をもらう代わりに店にある物を渡したりする店だ。私がもし作り直し屋に持って行くとしたら何にしようか。私が持って行くなら昔好きで何回も読んでボロボロになった絵本にしたい。

捨てることはできるけど愛着があり、いまだ捨てていない。そんな絵本を「読み終わるたびに新しい物語が書かれている本」に作り直してほしい。その理由は、私の趣味は読書でもしろい本や好みの本はすぐ読み終わってしまう。これは私にとっておいしい物をすぐ食べてなくなってしまうのと同じだ。だから、読み終わるたびに新しい物語が書かれた本がもしあったら素敵だと思うからだ。

作り直し屋のお話の中で一番印象に残ったのは、「星のモバイル」というお話だ。この話に登場するミアは、様々な魅力的な商品の中から病弱な弟へのプレゼント用にこの商品を選んだ。その星のモバイルの下は暖かく全身に日光を浴びている気持ちになる。帰って弟のクト

のベッドの上につり下げてあげるとクトはどんどん元
気になり、ついに普通の子どもと同じように過ごせるよ
うになった。星のモバイルをきっかけにクトは宇宙に興
味を持ち、やがて優秀な天文学者になった。そして新し
い星を発見し、その星にミアと名付けた。

この物語を読んでミアは弟思いの優しい子だと思っ
た。自分が欲しい物もあったはずなのにミアはクトのた
めに商品を選んだ。またクトも、自分が見つけた星に「ミ
ア」と名付けたことから姉思いなんだと思った。大切に
している物には力が宿るのだと感じた。

今の時代には使い捨ての物もたくさんあり物を持つ
ことについて深く考えない人が多いと思う。一人一人が
物を大切にし、同じ物を長く使っていると、愛着がわい

て物に対し思い入れが増えそうだ。私は幼稚園に入園し
たときから持っていて今も使っているシューズ入れが
ある。この本を読んで改めて物を大切にしようと思った。

読んだ本「作り直し屋」

銀賞

臓器移植、提供する側の気持ち

東郷小中学校 六年 松浦 渚笑

「いのちの選択 今、考えたい脳死・臓器移植」という本を読みました。脳死や臓器移植とは、どのようなことなのか知りたかったのでこの本を読むことにしました。この本は、研究者たちや、臓器提供をした方のご家族が「臓器移植」について考えたことや、感じたことをまとめた本です。その中でも私は、二つ心に残った話がありました。

まず、一つ目は脳死についてです。脳死とは、意識が無いということ。または、脳の働きは失われて、もう元にはもどらないけど、体のほかの部分は、そのまま生き

ているとされる状態のことです。

二つ目は、臓器提供をした方のご家族、佐藤凜さんの話です。佐藤さんは、家族の一人が事故のため脳死状態となりました。佐藤さんたちは、臓器移植に同意しましたが、今では、「最終的には、自分が殺したのではないか」とこうかいているそうです。私は、この話を読んだ、臓器移植は、だれかを助けるために必要かもしれない、だけど、家族に負担をかけることがあるということが分かりました。また、この佐藤さんの話から、とても伝えたいと思う文章を見つけました。

臓器を受け取ったけれど、失敗した人の話も、ご本人は死んでしまうので、決して聞けません。臓器移植が成功し、「受け取ってよかった、生きていてすばらしい」

という人の話しか聞けず、臓器を摘出された人、移植を受けて亡くなった人の気持ちが忘れられている。そしてその人たちの思いは、だれも代弁できないし、分からない。そういうことをすごく感じています。

私は、このことから、提供してくれた遺族は生きているのだから、もっと気持ちを伝えて安心させてあげべきだと思います。移植が成功した人が「提供してくれた人のおかげですばらしい人生を送れています」と、いろいろなところで、話をしたり、手紙を送ったり、伝えることが大事だと思います。

私の今の年れいでは、自ら判断することはできないけれど、自分の考えでは、臓器は全て提供できるようにしたいです。なぜなら、この本を読んで、子どもは身体が

小さくて、心臓などを提供するドナーが少ないと書いてありました。なので、自分が、十五歳未満で脳死判定が出た場合は、すべての臓器が提供できるようにしたいです。

臓器提供について様々な意見を言う人もいますが、臓器提供を受けた側の人々や、臓器を提供した側の人々の気持ちを少しでも分かってほしいです。

読んだ本「いのちの選択

今、考えたい脳死・臓器移植」

銅賞

どんな人にもやさしく

酒谷小学校 六年 小野 公雅

ぼくは、本を読むことが好きで、いつも本を読みます。

だから、学校からの宿題で読書感想文が出たときにどんな本を読もうかなという気持ちになりました。せっかくなので、あまり読んだことがない本を読みたいと思い図書室へ行きました。すると『七草小屋のふしぎなわすれもの』という本がありました。この本を手にしたときにふしぎなわすれものってなんだろうという気持ちになりました。読むのを楽しみにしながら家に帰って、すぐに読みはじめました。

『七草小屋のふしぎなわすれもの』には、今井草介と

いう人が出てきます。この人は一人で七草小屋の小屋番のアルバイトをしています。なぜかというところ、いっしょに働いていた町田さんが七草ヶ岳のふもとのこだま山荘にいつて、次の年のゴールデンウィーク前まで一人で働くことになったからです。

ある日、草介はふしぎなわすれものの箱を見つけます。そしてふしぎなわすれものによびよせられるように訪れた、山の住人たちとふれあうお話です。

この本で気になったところは、ふしぎなお客さんが来ても草介は、小屋番らしい行動をしていたということだと思います。ここが気になった理由は、草介はふしぎなお客さんが来ても、やさしく対応したり、お客さんの気がすむまでがんばったりしていたからです。今井草介が小屋番

らしい行動をしたのを読んで、ぼくは、草介はすばらしいなという気持ちになりました。

これから、どの人も大切に、やさしくしていきたいです。

また、オカリナをふいて、山の動物たちをねむらせようとしたけれど、全くねむらなかったところが気になりました。草介はその時何回しても、ねむらなかったので、イライラした気持ちだったのかなと思いました。でもあきらめずにオカリナをお客さんのために、ふいたのだと思います。ぼくは、草介の行動に対して、やさしい、かっこいい、たのもしいと感じました。ぼくも草介のようになりたいです。

読んだ本「七草小屋のふしぎなわすれもの」

この本を読み終わって、ぼくは草介のやさしい対応がいいなという気持ちになりました。やさしい対応をする、いつかは恩が返ってくるということがわかったので、

入選

「わたしの苦手なあの子」を読んで

榎原小学校 六年 崎村 心音

わたしは、「わたしの苦手なあの子」という本を選びました。この本を選んだ理由は、表紙に二人の絵が書いてあってこの二人がどんな関係なのか気になったからです。そして、本屋でおすすめの本で選ばれていたからです。また、この本の二人の女の子は、私と同じ六年生なのでどのような物語なのか気になったからです。

主人公の本間リサは、ツンとしていてだれとも仲良くしようと思わず、心臓が悪いとうそを言ってプールや体育は、いつも見学しています。リサは、足をやけどして学校でいじめられ、不登校になり、お母さんから「転校す

るのか、学年をおくらせるのか」と選たくさせられリサは、転校を決めました。ミヒロは、リサの転校の理由を知り、仲良くなりたいと思うのにリサは、ミヒロに対して冷たいままです。夏休みに自分の苦手なことをこくふくすると宿題に出てミヒロは、苦手なりサをこくふくする、リサは、ありのままの自分を受け入れることと決めました。リサが自分を好きになるために短いズボンをはいてミヒロといっしょに買い物にいきます。ミヒロは、リサをこくふくするためにできるだけ話しかけています。

わたしは、本間リサが自分からにげないためにやけどだけがした足が見えるくらい短いズボンをはいてミヒロと買い物にいったところが心に残りました。その理由

は、足のやけどが見えない様に長いズボンばかりはいていたけど、短いズボンをはくのになすごく勇気がいると思っただけです。しかもリサは、自分から人が多い方のお店を選んで前の学校でリサをいじめていた子がいてもにげなかつたのです。すごいと思いました。前の学校でいじめられていたことを思い出してリサが苦しそうにしていたのでかわいそうと思いました。

わたしも似たような経験があります。それは、お店や祭りのときです。わたしもリサと同じで人が多い所が苦手だけど友達や知っている人、家族といると人が多いところでも安心していきます。リサも、ミヒロといると安心して出かけられるのかなと思いました。

主人公のリサとミヒロは、最初は、仲が悪くてミヒロ

は、リサをこくふくして仲良くなろうと思いい、リサに一生けん命話しかけました。リサは、ありのままの自分になるためにミヒロに手伝ってもらいながら外に出かけるようになりました。

この本を読んで私は、苦手なことや人からにげないですぐにあきらめないことが大切だと思いました。また、リサとミヒロは、夏休みにこくふくしたいことを決めていたので私も一つ目標を決めて一生けん命がんばって取り組みたいです。

読んだ本「わたしの苦手なあの子」

入選

海を守るためにぼくができること

油津小学校 六年 渡邊 亮太

夏休みのある日、タブレットでニュースを読んでいたとき、こんな記事が目にとびこんできました。八月八日、北海道の苫小牧市で全長六メートルのマッコウクジラの死体が発見されました。マッコウクジラの尾びれには網がからまって泳ぐことができなくなり、死んだようです。ああ、またか。ぼくは、悲しい気持ちになりました。人間が捨てたごみが原因で命を落とす海洋生物のニュースが後をたたないからです。

主人公のフィンのお母さんも、漁師の網が体にからまって亡くなってしまいました。お母さんの正体は海の妖

精で、イルカの姿で仲間と泳いでいるときに網がからまりました。イルカの姿だったから、自分で抜け出すことも助けを求めすることもできなかったのです。

こうして、海の生き物たちは、人間とコミュニケーションを取る手段をもっていないから、「海にごみを捨てないで欲しい」「海を汚さないで欲しい」と伝えることができずに、命を落としていくのではないのでしょうか。

人間は、自分たちの生活さえ良くなればいいのか。海の生き物の命に責任はもたなくていいのか。そう考えていたら、「エスデイージーズ」という言葉を思い出しました。勉強をしていたときの問題文にエスデイージーズのことが取り上げられていて、地球の環境や生き物の健康を守るために国連サミットで決まった十七の目

標だと書いてありました。毎日の生活の中でできることがたくさんありました。

その他に、ぼくは、夏休みの宿題の感想画にフィンがイルカを助ける場面を描きました。絵を見た友達や大人の人達が、ごみで苦しむ海の生き物の様子を知ってくれたら、海の生き物の命を守ることにつながると思ったからです。ぼくにできることを、これからも考えながら、実践していきたいと思います。

読んだ本「イルカと少年の歌」

【中学校の部】

《講評》

入賞した作品は、登場人物に自分を投影して、自分の経験や生活と結びつけて、自分の言葉で素直に感想を述べています。さらに、本のテーマや自分が触発されたことを中心に抱いた思いを文章化しています。つまり、その本との出会いを通じて、自分自身を深く見つけ、物事の考え方、受け止め方がどう変わったかを記述しています。同時に、その作品の魅力が上手に伝えられています。注意してほしいことを述べます。推敲してきれいな文字で書くのはもちろんのこと、多くのことが書き込まれ

ていると、印象が薄くなります。特に感動したことや本のテーマから考えたこと等を選択して書くことで読み手に強い印象を残します。

また、今回の感想文は、自己啓発を促す本や、ケータイ小説、ライトノベルズあるいは漫画を原作とした小説等がほとんどでした。今後、国語の教科書等に出てくる作家の本、いわゆる文学作品と呼ばれる作品にも是非挑戦して欲しいと感じました。

最後に、偉人が残した読書に関する言葉を紹介します。「宝島の海賊たちが盗んだ財宝よりも、本には多くの宝が眠っている。そして何よりも、宝を毎日味わうことが出来るのだ。」（ウォルト ディズニー）

金賞

「夢をかなえるゾウ」を読んで

飢肥中学校 一年 鍋倉 叶

私が、この本を読んだきっかけは自分の将来について、どうしたらよりよい人生を歩み、そして夢をかなえることができるのかを考えたいと思ったからです。

「夢をかなえるゾウ」の物語は、「変わりたい」と願う青年が、ガネーシャという神様と突然出会う所から始まります。そのガネーシャとは、「頭は象で、体は手が四本ある人間」という不思議な容姿をした神様で、物語中のガネーシャは、なぜか関西弁を話します。そんな不思議な神様ガネーシャから青年へ出される課題をこなすうちに、「変わりたい」という思いを現実にし、成長

していくという物語です。物語のガネーシャの課題は、全部で二十九個あります。その中で最も自分のためになったと思う課題が四つあります。

まず二つ目の課題は、「靴を磨く」ことです。これは、ガネーシャの最初の課題です。この「靴を磨く」という課題は、靴を自分の売りとなる道具と見立て、普段から身に着ける物を大切にすることで、自分を変えることができるというものでした。私の生活には靴を磨くという習慣はないけれど、よごれている靴はあります。このガネーシャの言葉から普段から自分を支えてくれている靴を洗う習慣をつけ、そして靴だけでなく、自分が身に着けている物は大切にしようと思いました。

二つ目の課題は、「身近にいる一番大事な人を喜ばせ

る」ということです。この章では、ガネーシャはこんなことを言っています。

「人間は不思議な生き物で、自分にとってどうでもいい人には気遣うのに、自分にとって一番大事な人を一番ぞんざいに扱う」この言葉を聞いて、自分に当てはめてみると確かにそうだということに気づきました。私にとって身近で大切な人とは、両親です。けれども、両親は友達よりも気遣っていないと感じました。一番大切な人だと分かっているはずなのに不思議です。この章を読んで、本当に大切な人を見極めるといふこと、そして親孝行というものの大切さを学びました。普段、感謝の気持ちを両親に伝えることがないけれど、普段の感謝の気持ちを何か違う形で表していければいいなと思います。また、

「一番大事な人をぞんざいに扱う」という人間の習慣にとらわれず、自分なりの形で後悔しないような生き方を選択していきたいです。

三つ目の課題は、「人の長所を盗む」ことです。私は、人と比べてしまいマイナスな思考になってしまふことがあります。この章でガネーシャは、「何かの目的に照準が合っていたら、人のマネすることにはずかしさなんか感じない。」と言っている所があります。この言葉から人の長所を盗むことは決してはずかしくはないといふことや、人と比べてばかりではなく、その人のいいところをマネするのも大切なことなのだというところに気づかされました。これからは、自分と比べるのではなく、その人のいいところを見つけたら、マネしていこうと思

います。

四つ目の課題は、「毎日、感謝する」ことです。これは、ガネーシャが青年に出した最後の課題です。この章から、お金も、名声も、地位も、自分で手に入れたものではなく、全部、他人が自分に与えてくれるものだということを学びました。当たり前にあるものも本当はありがたいものであり、だれかががんばりのおかげで、私たちは日常生活を送ることができています。私は、ガネーシャから毎日感謝するということの重要性を教わりました。このことを忘れずに、今あるもの全てに感謝の気持ちを込めて、これから毎日の生活を送りたいです。

私は、この本から、とても大事なことをたくさん教わりました。この本で特に印象に残っているのは、「意識

を変えるのではなく、具体的な何かを変える」という部分です。これは、意識を変えても具体的な行動を変えなければまったく意味がないし、意識なんてすぐにもどつてしまうということです。この言葉から意識を変えても、行動を変えなければならぬのだということを選び、意識よりも先に行動に移すということをごんばりたいと思いました。また、この本の主人公がやっていたように日々のちょっとした小さなことの積み重ねが将来へとつながっているんだということを実感することができました。私もこの主人公のように毎日の積み重ねというものを行動に移し、自分の将来の夢に向かって歩んでいきたいと思えます。

読んだ本「夢をかなえるゾウ」

銀賞

「考える」大切な人との最後

飢肥中学校 二年 日高 綾音

「特攻隊員」とは、片道分の燃料と爆弾だけを積み、敵艦艇に攻撃する人のことです。小学六年生の時に修学旅行で訪れた「知覧特攻平和会館」。四百三十九人の方が飛び立ち、命を落とさなければならなかったという事実、遺影や遺書、家族に宛てた手紙や遺品を目のあたりにし、戦争というものの恐怖が全身を包んだ感覚は忘れられませんでした。

そんなある日、汐見夏衛著の「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら」という作品を見つけました。中学二年生の百合が戦時中の日本に、タイムスリップしたとい

う物語です。特攻隊員の彰との日常が描かれています。戦時中で苦しい中、たくさんの人と出会いながら、色々な体験をし、成長していきます。

「頼む、お願いだ、どうか見逃してくれ！俺は……行きたくない……。」

「……死にたくないんだ……っ。」

これは私が一番心がうばわれた言葉です。彰と同じ隊に所属する仲間の板倉が百合に言った言葉です。この日は、彰たちに出撃命令が出された日でした。彰は百合が、「行かないで。」と止めても、「家族や友人や大事な人たちを守るために征く。」と言い、最後まで自分の意志を変えようとはしませんでした。

それに対し板倉は、「特攻に志願したこと、後悔して

います。「やり残したことがある！」

というように「生きたい」という強い意志と一緒に、「死への恐怖」を持っていました。私は、特攻隊員はみな彰のように「国民のために」、「お国のために」という思想のもとで、日本を飛び立とうとしているのだと思い込んでいました。しかしそれだけではなく、違う「感情」を持ちあわせていたのだと気づきました。

私が、人間が当たり前に抱く特攻隊員だったら、国のためとはいえ、自ら死に行く選択はできないと思います。しかし、行かなければならないその恐怖は、はかりしれません。板倉のように、死ぬのが怖いと正直に表現する人もいたという部分に、とても人間らしさを感じました。

そしてもう一点、百合の行動に考えさせられる点がありました。百合は、ツルが働く鶴屋食堂で住み込みで働いていました。ある日、着物や手作りの漬物と野菜や果物を物々交換してもらうため、向かった先で、見たことないほどに痩せ細った小さな男の子を見つckerのです。その子がゆっくり顔を上げながら、

「……おなか、すいた。のど、かわいた。」

と百合に言うのです。百合は、男の子に、交換したわずかな野菜を差し出したのです。この時を生き抜くために、自分たちに必要なとても貴重な食料だったにも関わらず、男の子を救うという行動に出た百合に、同世代とは思えない優しさの持ち主だと感じました。

自分が百合だったら……食糧を差し出していただろ

うか。厳しい状況の中、同じ行動はできなかつたかもしれない。私には妹も弟もいます。そのことも考えると、苦しい……。命の選択をせざるをえないという状況は、今を生きる私には、考えても、考えても答えを出すことはできません。さらに男の子が、「父ちゃんも母ちゃんも死んで、食べ物もお金もなくなって、お腹が空いて、店に並んでたのを食べようとしたら、店のおじさんに殴られた。何回も……。何回も……。」と言って泣き出した時、「……痛かったね。怖かったね。」と寄り添った場面でも百合の人としての優しさと強さに心が打たれました。

百合はその後、元の時代に戻ることができ、戦争の世界とは全く違う、とても平和な日常を取り戻します。彰

のことを思う日々の中、社会科見学で特攻資料館を訪れることになるのです。そこで、彰の写真を見つけました。さらに、見る勇氣を持たずにいた手紙が展示されていたのです。その手紙が涙で読めなくなる程泣きじゃくり、彰との想いを重ねている姿は、読んでいて、とても胸が苦しくなりました。そして、平和会館で読んだ特攻隊員の手紙を思い出しました。「泣かないでください」「元気で征きます」と家族に宛てた言葉がたくさん書かれました。家族のことを思い、死への恐怖に一人耐える特攻隊員の心情を思うと心が痛みました。

今、世界的にコロナが流行し、感染してしまうと隔離されます。家族とも会えず亡くなった方も多くいらっしゃると思います。最後に苦しみながら死ぬということは

とても苦しいことです。私は、大切な人と人生の最後を迎える事を望みます。だからこそ戦争で辛い想いをしてくられた方々の気持ちを絶対に忘れてはいけません。自分の命があることに感謝し、百合のように他者を思いやる精神を胸に留め、一日一日を大切に生きていきたいです。

読んだ本「あの花が咲く丘で、

君とまた出会えたら」

銅賞

「思うは招く」

南郷中学校 二年 松岡 洸佑

みなさんは「下町ロケット」というドラマを知っているだろうか。この本の著者は、そのドラマのモデルとなったといわれる植松電機株式会社社長の植松努氏である。この本の題名は「好奇心を『天職』に変える空想教室」だ。「好奇心を『天職』に変えるとはどういうことだろう」そう思い、この本を読むことにした。

「作れない」「飛ぶわけがない」と思っていたロケットを飛ばせたから、小さな自信がわいた。そのことで、みんなが優しくなれる。「この小さな自信がこれからの日本にはどうしても必要なのです。」と筆者は、この本

のはじめに訴えていた。

では、「自分に自信があるか」と問いかけてみた。答えは、「五ミリぐらいの自信はあるかな…」なぜなら僕は、引っ込み思案で、人前で話すことも苦手。だけど、部活の試合や、ここぞ、というときには何かができる、そんな僕に五ミリ程の自信は持てると思っていた。だから、この言葉が印象的で、僕を励ましてくれる言葉となった。また、「思うは招く」という言葉も印象に残った。

著者は、ロケットが好きで、小さな町工場で宇宙に飛び出す本物のロケットの開発に取り組んだ。また、宇宙空間と同じ無重力状態を作り出す微小重力の実験、小型の人工衛星開発、さらには、アメリカ民間宇宙開発を軸に各研究を進めてきたそうだ。

夢に向かって突き進み、それを実現してきている筆者の姿から自分を振り返ってみた。僕の父と祖父母は、きゅうりと米を中心とした専業農家である。僕も将来、父や祖父母の跡を継ぎたいと考えている。しかし、自分が好奇心をもっている作物は我が家で栽培している作物ではない。その作物は「いちご」である。南郷町では、キュウリやピーマンなどの野菜やマンゴーやみかんなどの果物の栽培が盛んに行われている。しかし、いちごを栽培している農家はいない。

なぜ、「いちご」なのか。自分には、六才上の兄がいる。僕が小学校の頃、兄は振徳高校地域農業科に通っていた。そのとき、兄が苺の収穫時期に、自分たちで栽培したいいちごを何度か持って帰ってきてくれた。それを、

食べたとき、甘くておいしいと思った。そして、次第に、自分でもそのような甘くておいしいいちごを作りたいと思うようになってきた。

「思うは招く」この言葉を胸に、「将来いちごを作りたい、いちごを使ったおいしいものを作りたい」この思いを、これからも持ち続け、将来、父、兄、祖父母とともに実現させたい。

そして、この本の著者植松努氏のように、前を向いて、ポジティブに行こうと思った。そして小さな自信でもいいから少しでも自信をつけてこれからの未来のためにも頑張っていき農家としての道を歩んでいこうと思う。

僕の背中を押してくれたこの本を、多くの人に読んで

もらいたい。そして、多くの人が夢を持ち、その夢に向
かってポジティブに行動してもらいたい。「思うは招く」
強い意志があれば著者のように、夢は実現できると思う。

読んだ本「好奇心を『天職』
に変える空想教室」

入選

それぞれの日常・目線

日南学園中学校 一年 奥村 滴

私にとって日常とは、誰かと一緒に過ごすものですが、主人公のあゆみにとっては違うものでした。

『宇宙を駆けるよだか』は、クラスの人気者あゆみが海根と体が入れ代わったことにより、自分と海根では、日常が全く違うことに気づき、体を取りもどそうと試行錯誤する物語です。その中で私の心に残った場面を三つ紹介します。

一つ目は、海根と体が入れ代わった翌日、いつものメンバー達に話しかける場面です。あゆみがいつものように友人の律やマリに話しかけると、二人はあゆみという

時とは全く違う目でこちらを見て「私たちそんなに仲良かったっけ。」と問いかけてきました。それにあゆみは海根さんがこんなことされているのに気付けなかったなんて最低だな、と考えます。きっと私が同じ立場だったなら、友達に冷たい目を向けられたのがショックで、立ち直れないでしょう。

二つ目はあゆみと海根が本音をぶつけ合い、互いに和解除し合う場面です。あゆみは、今まで海根が苦しんでいたのを気付けなくて申し訳なかったこと。海根は、自分ばかり辛い思いをしているのに、楽しんで楽しく生きているあゆみが妬ましかったことを言いました。私は、自分ばかりが辛い思いをしていると考えてしまう海根と少し似ていると感じて、海根に共感する部分が多々ありま

した。誰かが悪いわけではないと頭では分かっている、心の理解が追いつけなくて、どうしようもない気持ちになっちゃってしまい、それを吐き出さずにいると、大きな過ちをおかしてしまつて海根のように、極端な結果にたどり着いてしまうんだなと思いました。

三つ目はあゆみが海根と入れ代わつたため、入れ代わる前と、海根の抱えていた不安や、嫌だった学校での立ち位置が、随分変わっていた場面です。あゆみの明るく、諦めない性格のおかげで、海根が元の体にもどつても、またみじめな思いをしなくて良くなったのです。あゆみのおかげで海根が自然に笑えるようになっていて、良かったなと思いました。

私はこの作品を読むまでそれぞれの人の目線につ

いて考えたことがありませんでした。ですが、私から見える日常・目線と、他の人から見える日常・目線は全く異なっていて、自分が幸せだと感じるとき、どこかで辛い思いをしている人がいるかもしれないということ胸に刻んで生活していきたいと思えます。

読んだ本「宇宙を駆けるよだか」

入選

不良高校とバカにされたって

飢肥中学校 三年 郡司 鈴実

皆さんは「不良」と呼ばれる人達にどのようなイメージを持ちますか。恐らく、多くの人は喧嘩ばかりしている悪いイメージを持つことでしょう。私も実際そうでした。しかし、「仰げば尊し」という本を読んで、見方が変わりました。この本のあらすじは、神奈川県で一番柄が悪いと評判の美崎高校の吹奏楽部に樋熊迎一という教師がやってきて、高校の中でも有名な不良である青島、木藤良、安保、高杢、桑田の五人も部活に入れ、コンクールの全国大会を目指す物語です。

この本の中で一番印象に残った場面は、木藤良が初めて青島を殴った場面です。コンクールの全国大会と留学のオーデイションの日程が重なった木藤良は留学の夢をあきらめてしまいます。夢をあきらめてほしくない青島が木藤良の背中を押すために殴り、青島を支え続けていた木藤良も初めて青島を殴ります。私はその場面の青島に強い印象を受けました。なぜなら、本当は一緒に演奏したいはずなのに、木藤良が何度も夢をあきらめて吹奏楽で演奏したいと言っているのに、夢をあきらめるなと言いつづけたからです。そして、青島たちは木藤良が部活をやめても許してくれるように部員に頭を下げます。私はこの場面から二つのことを感じました。一つ目は、どんなに不良だったとしても人は変われるということ

です。青島たち五人は少しずつ物事と向き合う姿勢が変わっていき、吹奏楽部に必要な存在となっていきました。

一生懸命吹奏楽と向き合う五人は素晴らしいと思います。二つ目は、二人は強い絆で結ばれているということです。友達のためなら殴ったりしてまでも相手を応援するという青島の不良ならではの行動に友情を感じ、青島らしいと思いました。

私がもし、美崎高校の生徒ならば、すぐにあきらめていたかもしれません。不良高校が全国大会なんて夢のよきな話で、実力に自信がなくなると思うからです。進路のことも考えながら勉強と部活の両立もしなければなりません。木藤良は、そんな中でもたくさん迷って追い詰められていました。同時に叶えることが不可能とされ

ていた二つの夢を木藤良は叶えることができました。それは木藤良に強い精神力と優しさ、仲間の存在があったからだと思います。それでも辛さを見せずに努力し続けた木藤良を今では心から尊敬しています。私も木藤良のような強い心を持った人になりたいと思いました。

私は今、吹奏楽部に所属しています。この約二年半の間に多くの経験をし、思い出も作ってきました。その中でも今年のコンクールはとても印象に残っています。今年度は、一年生が十七人も入部してきて、例年は打楽器でコンクールに参加するのですが、人数が多くて管楽器で参加することになりました。それに加えてコロナという状況で制限があつてのコンクールでした。最初の頃は楽器を吹く時間が少なかったり、注意点を意識せず吹い

ていました。このままではダメだと思って、楽譜への書き込みを増やしたり、パートごとに練習したりしました。本番に近づくにつれてみんなのやる気と緊張感が高まっていきました。結果は銀賞でしたがやり切ることはできたので嬉しいです。けれど努力や気持ちの面では美崎高校と比べ、負けていると感じました。だから、十月に行われるラストステージに向けて悔いの残らない練習をし、悔いの残らない本番にします。

私はこの本から学んだことが二つあります。一つ目は、「誠意、謙虚、感謝」の三つの言葉です。美崎高校の吹奏楽部員は、ゴミ拾いによって誠意を示し、謙虚な姿勢で何事にも取り組み、常に感謝の気持ちを持っています。これらのことは、今の自分に足りないと感じました。

人とコミュニケーションをとっていく上で大切なことなので、毎日生活していく中で少しずつ意識していこうと思います。二つ目は、中途半端な気持ちで行動してはいけないということです。この物語では何度も衝突したり、悩みを抱えている場面が多く出てきます。けれど、彼らがステージに立つときは中途半端な気持ちがなく、最高の演奏をしています。それは全員の心が一つになったからです。どんなに不良高校だとバカにされたって、彼らは常に前を向いていました。相手を思いやり、皆同じ夢に向かうことで成功へと導かれます。そんな気持ちが必要だと学びました。

今回学んだことと自分の生活を比べてみると、今後変えていくべきことや物に対する見方が変わったと思

ます。それを無駄にすることなく、今後に生かしていきたいです。

読んだ本「仰げば尊し」

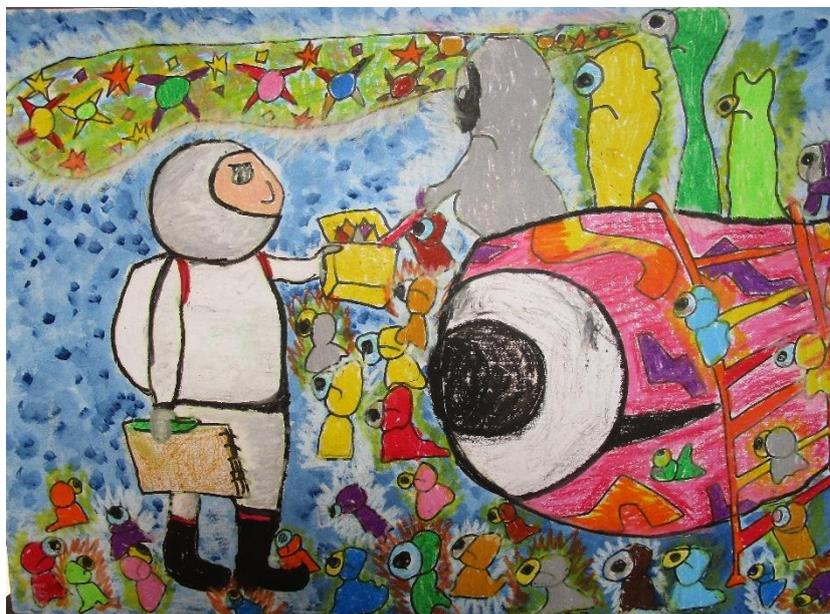
読書感想画入賞作品

【小学校一年生の部】



読んだ本「カメレオンのかきごおりや」

金賞 油津小学校 井上 翔貴



読んだ本「みらいのえんそく」

銀賞 潟上小学校 河野 瑛心

読んだ本「みらいのえんそく」



銅賞 桜ヶ丘小学校 後藤 空翔



入選

飢肥小学校 清水 尊平
読んだ本「ジャックとまめの木」



入選

鶴戸小中学校 坂元 心春
読んだ本「どんぐり村のぼうし屋さん」

【小学校二年生の部】



読んだ本「でんでら竜がでてきたよ」

金賞 油津小学校 緒方 悠斗



読んだ本「うみのとしよかんあらしがやってきた」

銀賞 吾田東小学校 甲斐 遥音

読んだ本「ちいさなちいさなうみのおさんぽ」



銅賞 吾田小学校 小玉 心遙



入選

細田小学校 森 雫月

読んだ本「おおきなおおきなおいも」



入選

潟上小学校 山倉 栄祐

読んだ本「こんにちは！わたしのえ」

【小学校三年生の部】



読んだ本「おしゃべりなたまごやき」

金賞 鶴戸小中学校 坂元 海音



読んだ本「絶滅危機動物図鑑」消えてゆく野生動物」

銀賞 南郷小学校 田中 惟都

読んだ本「うみキリン」



銅賞 油津小学校 山田 陽莉



入選

大窪小学校 高村 叶望
読んだ本「でんでんむしのかなしみ」



入選

鶴戸小中学校 外山 華妃
読んだ本「にくのくに」

【小学校四年生の部】



読んだ本「花のすきなおおかみ」

金賞 油津小学校 竹井 柚葉



読んだ本「にじいろのさかなとおおくじら」

銀賞 飢肥小学校 黒原 音花

読んだ本「ともだちやもんな、ぼくら」



銅賞 北郷小中学校 中津 凜星



入選

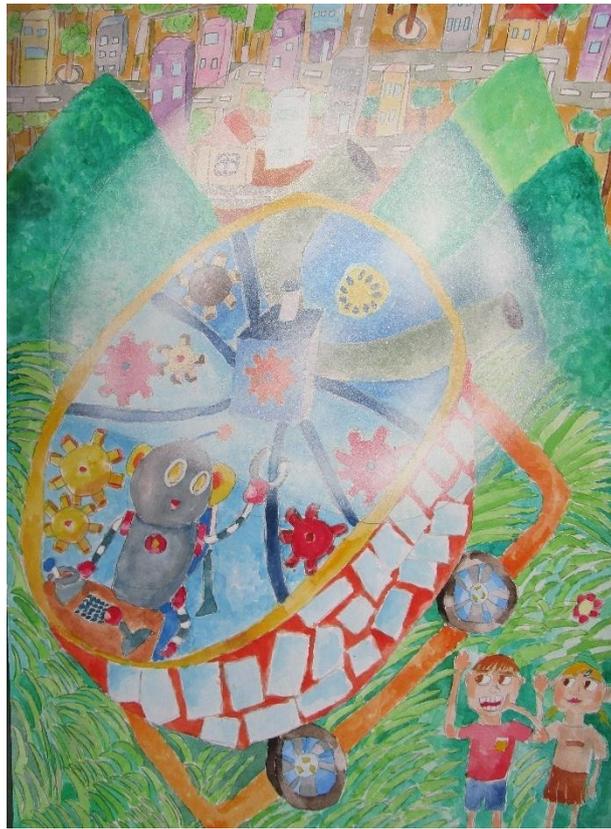
南郷小学校 田中 絢人
読んだ本「にくのくに」



入選

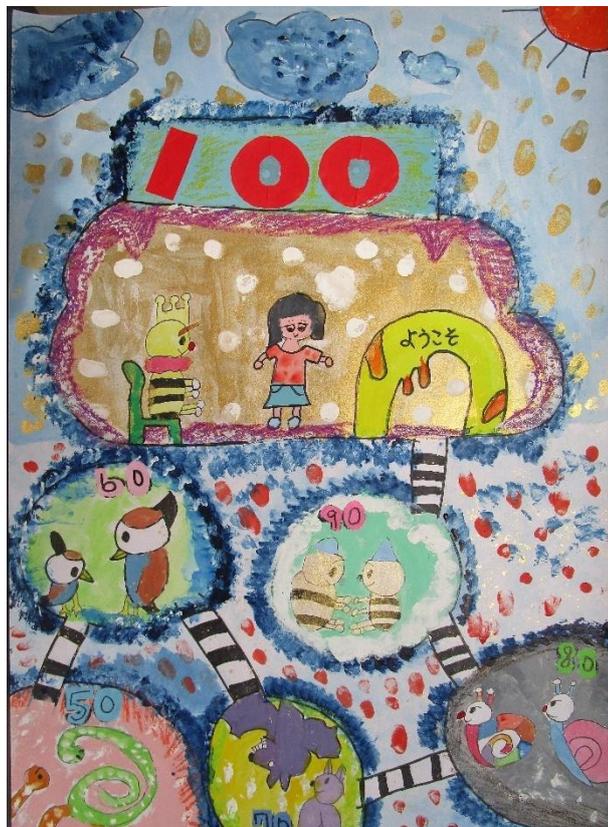
吾田小学校 田中 祐丞
読んだ本「ウミガメものがたり」

【小学校五年生の部】



読んだ本「宿題ロボット、ひろったんですけど」

金賞 油津小学校 鷹巣 凛人



読んだ本「100かいだてのいえ」

銀賞 飢肥小学校 山田 望結

読んだ本「らくだい魔女とランドールの騎士」



銅賞 吾田東小学校 藤本 虹春



入選

東郷小中学校 池田 柚希
読んだ本「イナバさん！」



入選

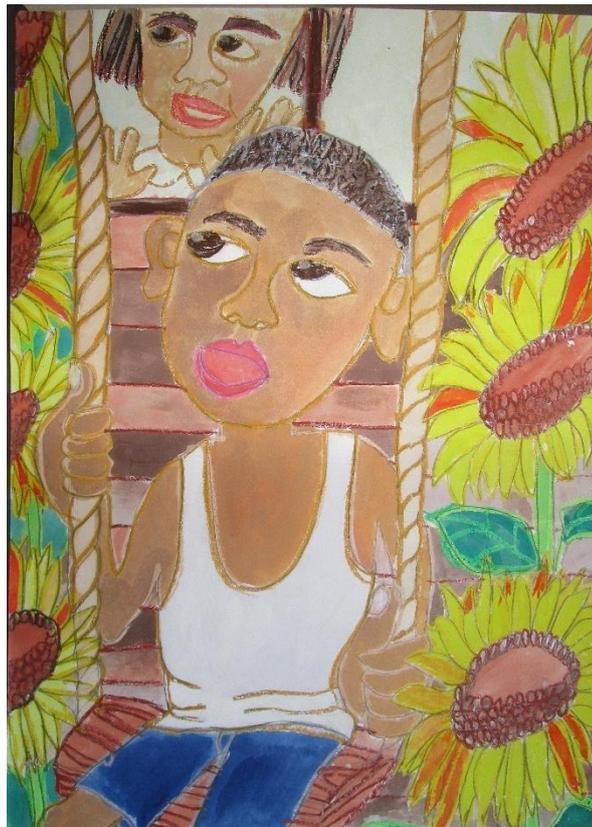
鶴戸小中学校 中原 咲和
読んだ本「イナバさん！」

【小学校六年生の部】



読んだ本「イルカと少年の歌」

金賞 油津小学校 川端 真矢



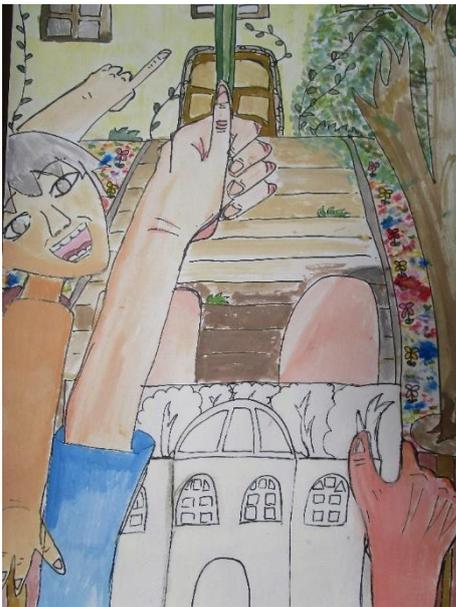
読んだ本「ひまわり
沖縄は忘れない、あの日の空を」

銀賞 吾田小学校 後藤 彩綾

読んだ本「そもそもオリンピック」



銅賞 北郷小中学校 中津 勇仁



入選

南郷小学校 原田 奈々
読んだ本「博物館の風景」



入選

潟上小学校 松本 葉奈
読んだ本「りゅうのめのなみだ」

読書感想画の審査を終えて

今年度は、市内の小学校、十二校から計百六十五点の作品が寄せられました。コロナ禍の中、児童の皆さんや小学校の先生方が読書感想画を描く時間をつくって意欲的に作品を応募されたことは、とてもすばらしいことだと感じています。

読書感想画は、様々な力を養うことができます。読書では、国語の読解力等を高めるとともに物語を楽しむことで豊かな心を育むことができます。また、感想画を描くことで、図画工作の目標に到達するための力を養うことができます。

審査は、今年も小学一年生から学年ごとに行い、物語から得た感動や感じた魅力が絵画の作品としてしっかりと表現されているか等を観点に、金賞、銀賞、銅賞、入選の作品を選びました。

読書感想画は、物語から読み取った情景のみを表現すると挿絵のようになってしまいうので、さらに工夫して物語から得た感動や感じた魅力を表現する必要があります。その工夫によって鑑賞者の心をひきつける作品になります。

各学年、入賞、入選した作品は、どれも表現力豊かな作品です。おもしろいと感じた表現方法がありましたので、いくつか紹介いたします。

吸水性の低い白ボール紙の特性を上手に利用し、塗った絵の具のムラと紙の白さの美しさを生かした作品や絵の具とともに色鉛筆での描画を加えて画面に物の動きや流れを表現した作品。また、金色を塗ったり銀紙やキラキラ光るテープを効果的に貼り付けたたり、ブラシに絵の具をつけてそれを金網にこすりつけ、スプレーで絵の具を吹き付

けたような表現を取り入れた作品もありました。

これらのように、様々な表現方法を工夫しながら、どの作品も自分自身が物語から得た感動や感じた魅力を、物語の世界として上手に表現しています。今回も各学年の入賞、入選した作品は、どれも完成度の高い作品ばかりです。

物語の魅力を伝えることができるような読書感想画を描くことはとても難しいことだと思えます。日南市の児童の皆さんは、毎年、読書感想画を描くことで読解力等とともに、図画工作での表現力を身につけています。来年度も多くの児童に読書感想画にチャレンジしてもらいたいと思えます。

鵜戸小中学校 校長 梅野 浩一

審査員氏名一覧

矢野根 育代 南郷小学校

村橋 恭一 北郷小中学校

湯淺 安彦 社会教育指導員

榎木田 文生 社会教育指導員

宮脇 隆 社会教育指導員

東 嘉太郎 社会教育指導員

米良 照彦 社会教育指導員

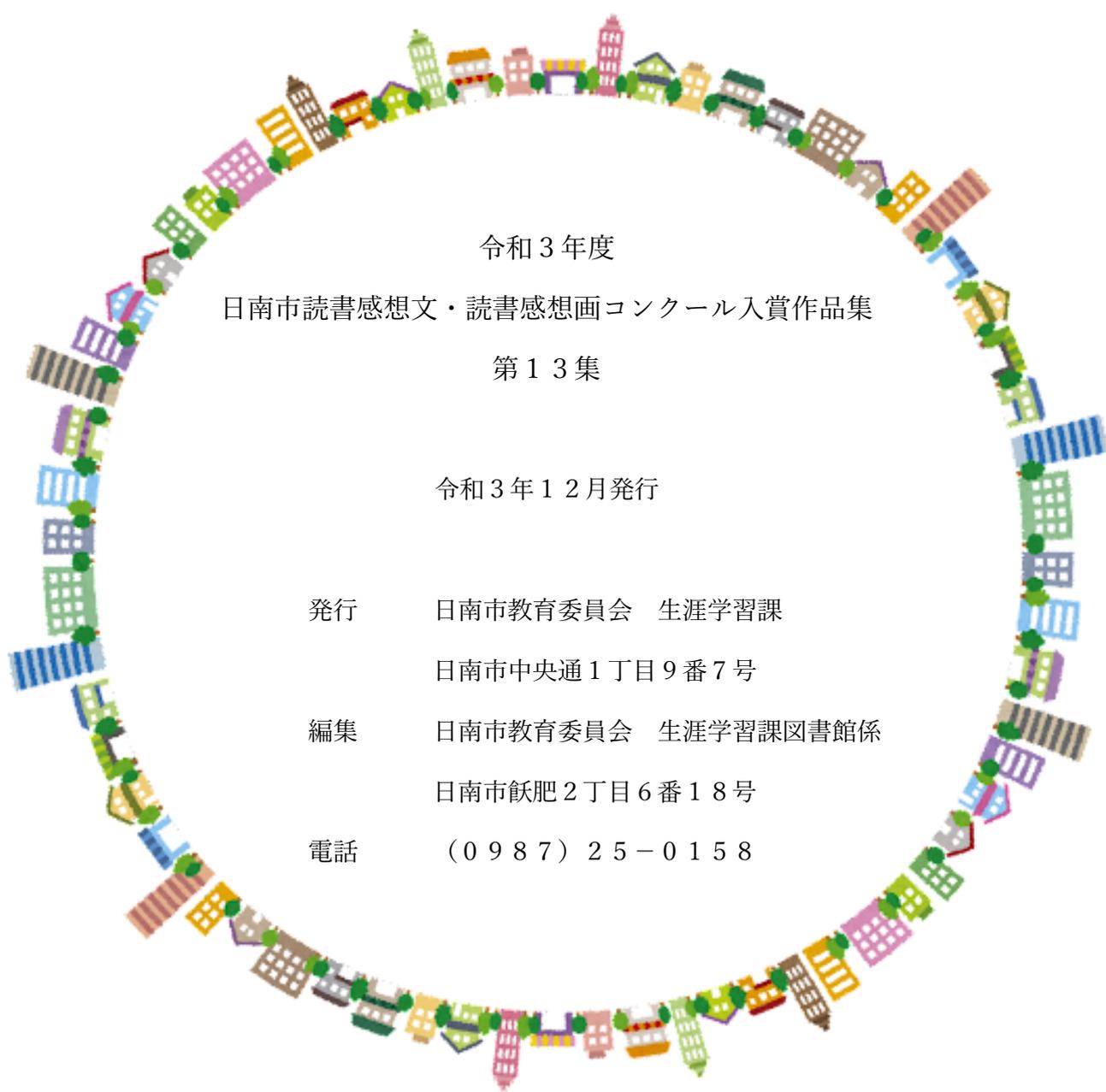
山下 健一 教育推進コーディネーター

梅野 浩一 鵜戸小中学校

圖師 宗忠 飫肥小学校

松浦 和枝 飫肥小学校

谷口 満美 大窪小学校



令和3年度

日南市読書感想文・読書感想画コンクール入賞作品集

第13集

令和3年12月発行

発行 日南市教育委員会 生涯学習課

日南市中央通1丁目9番7号

編集 日南市教育委員会 生涯学習課図書館係

日南市飫肥2丁目6番18号

電話 (0987) 25-0158